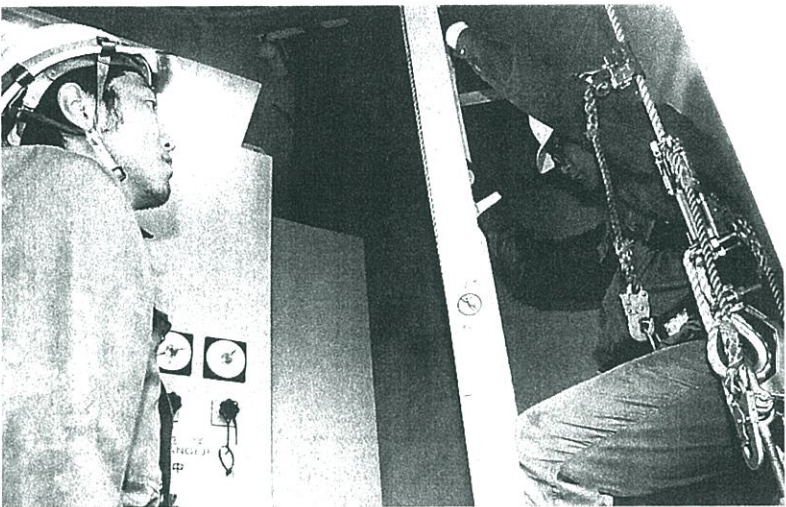


五島で初の実地研修

長崎海洋クラスター協 新規参入促す



風車のタワー内で昇降訓練に挑む参加者(右)

|| 五島市富江町

全国的に需要が高まっている風力発電設備のメンテナンス業について、長崎市のNPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会は5、7日、初めての体験セミナーを風力発電先進地の五島市で開き、新規参入を目指す事業者が基礎知識や技術を学んでいる。

同協議会によると、全国で約2200基の大型風力発電機が稼働し、今後も増え続ける見込みだが、メンテナンスを担う人材が不足している。協議会は新たなビジネスチャンスと捉えて市場を調査し、セミナーを企画。建設と土木の市内2業者が参加した。

指導するイー・ウィンド

(橋本武敏代表、同市)は同市内で洋上と陸上の風車12基のほか、これまでに全国約240基のメンテナンスを担当。そのノウハウを座学や実地研修で教えている。

6日は富江町の陸上風車でタワー内のはしごの昇降などを訓練。従業員2人を連れ参加した花村潜建の花村貞弘代表(53)は「確実に成長する分野。少しずつ挑戦したい」と意欲を示した。

イー・ウィンドは「新規参入で競合の可能性もあるが、今はメンテ業者が圧倒的に足りず、自社だけでは全てでは受け入れられない。求められる技術も年々高くなっていく。みんなと一緒に五島から盛り上げていければ」と期待する。

本年度の体験セミナーは島外事業者も参加して8月までにあと2回開く予定。

(石田慶介)